

黙示録5章「世界の巻き物」

1A 封印を解くにふさわしい方 1-7

1B どこにもいない、ふさわしい者 1-4

2B 勝利を得た小羊 5-7

2A 小羊への礼拝 8-14

1B 血潮によって贖われた者たち 8-10

2B 無数の御使いと全被造物 11-14

本文

5章を今晚は学びます。私たちは4章から、「この後に、必ず起こる事」を読んでいます。今ある事の後、ということ。つまり、教会がこの世において引き止める力となっているけれども、その後に何が起こるかについて、主がヨハネに予め示しておられました。ヨハネは、天に開いた門の幻を見て、御霊によってそこに引き上げられました。そこには神の栄光に輝く御座がありました。宝石の輝きで輝き、その回りに二十四人の長老がおり、それは教会、神の民の代表を表していました。そして御座の回りには四つの生き物がいて、彼らがおそらくケルビムであり、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな」と言って、礼拝を導いていました。そしてその賛美に対して、二十四人の長老も呼応して、神の前に自分の冠を投げ出して、ひれ伏していました。神が永遠に生きておられ、万物の創造主として拝まれています。

そして5章を読みます。場面は同じく、天においてであります。父なる神から小羊、イエス・キリストに地を裁く権利書が渡され、その渡された時に、万物がこの方の贖いについて、賛美と礼拝を捧げています。

1A 封印を解くにふさわしい方 1-7

1B どこにもいない、ふさわしい者 1-4

1 また、私は、御座にすわっておられる方の右の手に巻き物があるのを見た。それは内側にも外側にも文字が書きしるされ、七つの封印で封じられていた。

神への礼拝を四つの生き物と二十四人の長老が捧げている時に、ヨハネは、その御座の右の手に巻き物があるのをみましました。聖書において、「右の手」というのは、権威や力を表しています。私たちは四章において、万物において支配者がおられる、全てを神が造られ、主権を持っておられることを知りました。どんなことがあっても、神が御座におられるからです。その神の権威が右の手によって、小羊に任せられるようになります。イエス様は、「父はさばきを行なう権を子に与えられました。(ヨハネ5:27)」と言われました。

その右の手にあるのは、「巻き物」であります。当時の書物は、今のような冊子ではなく、パピルスや羊皮紙を使った巻き物でした。ギリシヤ語でビブリオンと言い、英語のBibleつまり「聖書」の語源となっています。それに、「内側にも外側にも文字が書きしるされ」とあります。大抵、内側のみに文字が記されていますが、外側にも書き記されています。これらは神の言葉であり、神が地上に裁きを下す言葉であることが分かります。なぜなら、同じように内側だけでなく外側にも、文字が書き記されている巻き物を、預言者エゼキエルが食べるように命じられて、それでエルサレムに対する神の裁きをエゼキエルが預言したからです(2:9-10)。そして預言者ゼカリヤも、飛んでいる巻き物の幻を見ました。そこには、「全地の面に出て行くのろいだ。」とあります。「盗む者はだれでも、これに照らし合わされて取り除かれ、また、偽って誓う者はだれでも、これに照らし合わされて取り除かれる。(5:3)」私たちは、これらの呪いを次の6章以降で読んでいくことになります。

そして、「七つの封印で封じられていた」とあります。封印とは、蠟などを垂らして印とするもので、後で「封印を解く」という表現が出て来ますが、日本の巻き物のような紐ではありません。蠟を垂らして、それが云わば手紙に封をする糊のような働きをしていて、巻き物を綴じます。そして蠟がまだ固まらないうちに、王の指輪にある印を押すことによって、誰がこれを開くことができるのか、その権威者を明らかにします。これが七つあります。そして6章以降、これらの封印が解かれていくことによって、災いが地上に降る幻が展開します。第七の封印が解かれると、今度は七人の天使による七つのラツパがあります。そして第七のラツパが吹き鳴らされると、七人の天使による七つの鉢による災いが始まります。七による災いで、その七つ目においてさらに七つの災い、さらにその七番目の災いで、七つの災いが下るということです。これと似たような神の裁きが、過去にありました。エリコに対する神の聖絶です。ヨシュアたちは、エリコの回りを一日に一周し、それを六日行ない、七日目は七周しました。

そして、これまで巻き物が封じられていたのですが、これから解かれます。黙示録の巻き物は、ダニエル書の巻き物の続きと言って良いかもしれませんが、ダニエルは、御使いから、ペルシヤ帝国から始まり、ギリシヤ帝国、そして終わりの時の世界戦争について長い預言を聞きました。そして、イスラエルが最後に滅ぼされそうになるが救われて、多くの者を義とした者が星のように輝くと預言した後に、こう言いました。「ダニエルよ。あなたは終わりの時まで、このことばを秘めておき、この書を封じておけ。多くの者は知識を増そうと探り回ろう。(12:4)」ダニエルは執拗に、その終わりはどうなるのかと尋ねましたが、「ダニエルよ。行け。このことばは、終わりの時まで、秘められ、封じられているからだ。(12:9)」と言われて、断られています。けれども、黙示録は、その封じられた書物、あるいは巻き物を開いたことを記録している書物です。

したがって、イエス・キリストが来られたことによって、このダニエルに神が啓示された巻き物が、解かれることになるのです。黙示録は、その難解に見えるような内容から、封じられた書物なのだということで避けられる傾向にあります。イエス・キリストご自身はこれを開く、解くのだ、明らか

にするのだと仰っておられるのです。私たちはキリストの弟子として、イエス様によって開かれるこれらの真理の奥義を知る祝福にあずからないといけません。イエス様は言われました。「マタイ 13:16-17 しかし、あなたがたの目は見えているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。まことに、あなたがたに告げます。多くの預言者や義人たちが、あなたがたのしているものを見たいと、切に願ったのに見られず、あなたがたの聞いていることを聞きたいと、切に願ったのに聞けなかったのです。」

2 また私は、ひとりの強い御使いが、大声でふれ広めて、「巻き物を開いて、封印を解くのにふさわしい者はだれか。」と言っているのを見た。

「強い御使い」が出て来ました。黙示録には、何度か、強い天使が出てきて、緊急性のある、重要な神の御告げを告げるのに用いられます。しかし、今ここで、この巻き物を開く者が誰がいるのか、あらゆる所にこの声が届くように訴えています。

3 しかし、天にも、地にも、地の下にも、だれひとりその巻き物を開くことのできる者はなく、見ることのできる者もいなかった。4 巻き物を開くのに、見るのに、ふさわしい者がだれも見つからなかったので、私は激しく泣いていた。

天にも、地にも、そして死後の世界である地の下にさえも、巻き物を開くことのできる者がいませんでした。そしてヨハネは、激しく泣いています。ここで起こっていることは一体何なのでしょう？ここで私たちは聖書全体に貫かれている主題の一つである、「贖い」について知らなければいけません。

「贖い」というのは、「買い戻す」という意味です。もともと自分のものであったのだが、売り渡されてしまいました。だから、自分のものだからそれを欲しいと主張するのですが、けれどもすでに売り渡されていますから、購入しなければいけません。自分の所有物であります。代価を支払って再び自分のものとしします。これが「贖い」です。モーセの律法において、貧しくなった人が、自分の相続地を売り渡さなければいけないことについて書いてあります。主は、アブラハム、イサク、ヤコブに、カナン人の地を与えると約束されましたが、イスラエル人が割り当てられた地を、お金がないという理由で手放してはいけません。レビ記 25 章 23 節には、「地は買い戻しの権利を放棄して、売ってはならない。地はわたしのものであるから。」と書かれています。そこで主は、貧しくなって自分の土地を売りに出した人は、代わりに近親者がそれを買い戻さなければいけないことを定めています。ルツ記を思い出してください、ボアズがナオミのために、夫エリメレクの土地を買い戻しました。そのように買い戻します。このように、土地を贖う律法が聖書にはあります。

そして、その土地を買い戻すことについて、買い戻すことができるための条件を書き記されてい

る証書があります。土地の購入証書です。それは買い取ることができる権利がある人が署名をして、それを封印します。そして、後で実際に買い取るときに、その購入証書の封印を、権利のある人が開いて、それで土地をその人のものにします。このことが、エレミヤ書 32 章に書かれています。エレミヤが預言をしていたときは、ユダにいる人々がバビロンに捕らえ移されて、祖国を失う直前にありました。けれども、それは祖国を永久に失われるのではなく、いつかまた彼らのものとなるという神の約束を、エレミヤは語ります。彼は自分の従兄弟が、自分の畑を買ってくれ、あなたに買い戻しの権利があるから、と言いました。それで、彼は銀 17 シェケルを支払いました。そして、土地権利書を土の器の中に入れる手続きを行ないました。その中で、主はエレミヤに一つのことを命じました。32章6節からです。「32:11-15 すなわち、証書に署名し、それに封印し、証人を立て、はかりで銀を量り、命令と規則に従って、封印された購入証書と、封印のない証書を取り、おじの子ハナムエルと、購入証書に署名した証人たちと、監視の庭に座しているすべてのユダヤ人の前で、購入証書をマフセヤの子ネリヤの子バルクに渡し、彼らの前で、バルクに命じて言った。『イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。これらの証書、すなわち封印されたこの購入証書と、封印のない証書を取って、土の器の中に入れ、これを長い間、保存せよ。まことに、イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。再びこの国で、家や、畑や、ぶどう畑が買われるようになるのだ。』と。」このように、土地を買い取り、土地権利書を封印する手続きを行ないました。それを取り戻す時は封印を解いて、所有権を主張します。これを父なる神が全世界に対して行なわれることなのです。父なる神が右手に購入証書を手にしており、この証書の書かれてある条件を満たす、買い戻しの権利がある者が全世界に対する贖い、買い戻しを行なわれるのですが、誰がその封印を解く資格があるのかと叫んでいるのです。

世界を造られたのは、神ご自身です。そして神は人を造られて、人が神が造られた世界を支配、あるいは管理するように定められました。「創世 1:28 生めよ。ふえよ。地を満たせ。地に従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」ところがアダムが、悪魔の言うことに聞き従い、神が言われることに背きました。そのために、地がのろわれたものとなった、と神は言われています。つまり、人が神から任されて支配するところの世界が、悪魔に渡されてしまったということです。そのために、悪魔は、「この世の君(ヨハネ 16:11)」「この世の神(2コリント 4:4)」と呼ばれているのです。そしてイエス・キリストは、悪魔のものとなっている世界を、神のみもとに買い戻すために、贖うために、この世に来られました。その贖う方法は、ご自分のいのちと、その流される血を代価とすることです。けれども、公に宣教活動を開始されるとき、荒野において悪魔から誘惑を受けました。悪魔は、この世のすべての国々とその栄華を見せて、「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。(マタイ 4:9)」と言ったのです。イエス様は、「この国々はあなたものではない。」などと反論されませんでした。なぜなら、事実、国々は悪魔のものだったからです。けれども悪魔は、十字架への道を歩まないで、今あなたのものになりますよ、と誘っているのです。しかし、イエスはその申し出を断られ、十字架への道を歩まれました。

こうしてイエスは十字架で、ご自分の血を流されて、その対価によって世界を買い取られました。けれども、その所有権をまだ行使しておられません。悪魔は不法にこの世界を占拠しています。しかし、今、その購入証書である巻き物の封印を解いて、実際にこの世界を、主イエス・キリストのものにするのです。ですからこれから読む黙示録の話には、封印が解かれたり、ラツパが吹き鳴らされた後などに、次のような賛美がささげられています。「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。(15:15)」「ハレルヤ、万物の支配者である、われらの神である主は王となられた。(19:6)」この地上に大患難が襲うのは、悪魔が行なっている不法な活動を中止させるためであり、悪魔がさばかれるためです。

神の地上に対する災い、裁きについて、希望ではなく、恐怖ばかりがセンセーショナルに語られてしまっていますが、つまりこのようなことです。ちょうどこれは、ある伝染病が一つのマンションに蔓延してしまっただけです。行政者は、そのマンションに人々が住み続けられれば、人々はみな死に絶えることを知っています。だから新しく建物を造って、人々をそこに移り住ませ、その伝染病の菌が蔓延しているビルを破壊しようと考えました。けれども、住民は反対運動を起こします。「我々が住み慣れてきたこのビルを破壊するとは何事であるか！伝染病が蔓延しているなど、とんでもないことだ！」と。インチキの科学者が、そこは大丈夫だ、ずっと続くと吹き込んでいたからです。行政者は、そのビルを破壊する警告を出しても、彼らは断固として動こうとしません。行政者は、辛抱して待ちます。しかし、住居者たちは伝染病にどんどんかかって、間もなく死に絶えるのも分かっています。そこでその住居者もろとも、その建物を破壊します。新しい建物に移り住んだ人が、その住居で生活を楽しんでいきます。

これがちょうど、今の世界であり、罪と不法がはびこり、それが満ちていて、このまま生きていたら必ず罪の中で滅んでしまいます。それで、主は新しくご自分の国を造られます。そこに人々が入ることができるように、イエスを信じる者が新しく御霊によって生まれて、神の国に入れるようにしてくださっています。それで、彼らを新しい住居、つまり天に引き移していから、古い建物、今の世界を滅ぼされるのです。そのインチキの科学者は、悪魔です。今の世がいつまでも永らえることを願わせているのは、悪魔なのです。ですから、私たちはキリストと、この方のもたらす新しい世界、神の国を待ち望み、人々には、悪から立ち返ってイエス様に救いを求めるように宣べ伝えます。

それで、封印を解く人がおらず、ヨハネはむせび泣いていますが、それはこれまでの歴史の中で、だれも世界を贖うことができなくなったことでも明らかにされています。政治を変えても、全く同じ状態、いやもっと悪くなりました。科学が発展しても、人々を幸せにしませんでした。芸術も同じです。そして人々は快樂を求めましたが、虚しさだけがあります。そして人々はスピリチュアルなものをもとめます。それは霊の世界、天や悪魔、地の下の世界です。そうした目に見えない存在であっても、人々を贖うことはなかったのです。

2B 勝利を得た小羊 5-7

5 すると、長老のひとりが、私に言った。「泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出たしし、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。」

長老のひとりとは、24人の長老の一人です。彼がただひとり、封印を解くことができる人がいることをヨハネに教えました。「ユダ族から出たしし」また、「ダビデの根」です。ユダ族の獅子とは、ヤコブがユダに、国々の民を従わせる王でありメシヤが出てくることを預言したところから来ています。「創世 49:9-10 ユダは獅子の子。わが子よ。あなたは獲物によって成長する。雄獅子のように、また雌獅子のように、彼はうずくまり、身を伏せる。だれがこれを起こすことができようか。王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。ついにはシロ」シロとはメシヤのことです「が来て、国々の民は彼に従う。」世界を贖って、王となられる方がユダ族から出てくるということです。そしてユダ族からダビデが出てきました。そして、イザヤ書 11 章にて、ダビデの根についての預言があります。「エッセイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。その上に、主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。(1-2 節)」エッセイはダビデの父ですが、ダビデの子としてイエスさまがお生まれになりました。イエスが国々を従えるところの王であり、ダビデの王座に着かれる方です。

そして、イエス様が「勝利を得た」とあります。何をもって勝利を得られたのでしょうか？

6a さらに私は、御座・・そこには、四つの生き物がいる・・と、長老たちとの間に、ほふられたと見える小羊が立っているのを見た。

「ほふられたと見える小羊」です。四つの生き物と長老たちの真ん中に立っておられて、「見た」とヨハネ入っています。全ての注意と注目がイエス様に向けられています。そうです、この方が罪の供え物として、ご自身の体を捧げてくださったこと、そして死んで、葬られて、今このように生きておられること。これゆえに、勝利を得たと言っています。ほふられたと見える小羊、これこそが勝利であり、主がご自身を信じる者にも、「勝利を得る者」と言われて七つの教会に約束をお与えになりました。イエス様は、先に言いましたように、数多くの戦いを経て、救いを全うされました。バプテスマを受けられ、その後に御霊に導かれて荒野に行かれ、悪魔の誘惑を受けられました。そして、十字架の道を歩まれましたが、そこは暗闇の力でありました。ゲッセマネの園において、血の混じった汗を流されました。こうして激しい霊の戦いの中で、神の御心を選び取られ勝利されました。

小羊については、過越の子羊があります。家族が家の中で子羊をほふり、その血を家の門柱と鴨居につけます。そして、エジプトに下る災いとその家を過ぎ越します。そして、罪の赦しのための子羊のいけにえは、数多くモーセの律法の中に書かれています。この流された血こそが、私たちを救う神の力です。これから、黙示録の最後、新しいエルサレムに至るまで、イエス様は「小羊」

として登場します。罪のための屠られた方こそが、私たちを贖い、永遠の救いを与えられます。永遠に、この方のなされた業がほめたたえられます。

そして小羊が、「立っている」ことにも注目してください。イエスが昇天されましたが、そのときに父なる神の右の座に着座されました。座っておられました。それは、ヘブル書によると、人々が救われるために必要なことを、イエスさまがただ一度、十字架の上に成し遂げられたので、他の救いのためにすることはなくなったからです。救いのみわがが完成したのです。今もイエス様は、神の右に座しておられ、私たちのために執り成しておられます。けれども、詩篇 110 篇 1 節に書かれてあるとおり、父なる神は御子に対して、「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ。」と言われているように、世界がキリストのものとなり、悪魔がキリストの足台とするため、ご自身が地上に戻って来られます。その時、キリストは右の座から立ちます。

6b これに七つの角と七つの目があった。その目は、全世界に遣わされた神の七つの御霊である。

聖書における「角」は、支配や権威を意味します。反キリストが後に、十本の角の獣として現われますが、それは支配と権威を持っておられるイエスの、摩り替えを行なっているからです。七は神の完全数ですから、七つの角は、主イエスが、父なる神からの全ての権威が与えられている姿です。そして「七つの目」は、ここにあるとおり神の御霊であり、すべてのことを知っておられることを意味しています。ゼカリヤ書にて、祭司ヨシュアに対する預言がありますが、それは後に来る王であり、かつ祭司であるメシヤの姿を表しています。そしてメシヤである石には、七つの目があることが預言されています(3:9)。

7 小羊は近づいて、御座にすわる方の右の手から、巻き物を受け取った。

ついに、小羊が巻き物を受け取られました！この情景は、ダニエル書 7 章に預言されていました。「7:13-14 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」ここにあるように、父なる神の御座に近づかれて、巻き物を受け取られたら、それは世界がキリストのもの、キリストの御国になることを意味していました。それで一気に、その贖いのための権威が与えられたことを一斉に賛美が始まります。

2A 小羊への礼拝 8-14

1B 血潮によって贖われた者たち 8-10

8 彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、立琴と、香のいっばいはいった金の鉢とを持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである。

四つの生き物と二十四人の長老が、小羊の前にひれ伏します。これは、完全に倒れ伏して、この方を拝む行為です。そして、長老たちは立琴を持ちます。黙示録において、二度、天において立琴が弾かれているのを見ます。詩篇の中にも賛美において、またダビデが少年の時、立琴をひいていました。天においても、この楽器が使われています。

そして、「香のいっぱいはいった金の鉢」を持っています。地上の幕屋において、金の香壇が聖所の中にあつたことを思い出してください。大祭司は、その香を契約の箱の上で覆いますが、地上の幕屋は天にあるものの模型であります。これから天において繰り広げられる描写を読むときに、地上の幕屋を思い起こすと良いです。香は、「聖徒たちの祈り」を意味していました。思い出してください、イエスさまが私たちにこう祈りなさいといわれた祈りの中に、次のようなものがありました。「天にいます私たちの父よ。…御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。(マタイ 6:9-10)」世界中で、二千年祈られてきたこの祈りが、神の前に届けられています。そして、この地上に神の国が立てられる祈りが、今聞かれています。

9 彼らは、新しい歌を歌って言った。「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、10 私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。」

四つの生き物、そして二十四人の長老たちがひれ伏している時、聖徒たちがこの新しい歌を歌ったのです。「新しい歌」とは、新しい命、新たな交わり、その関わりにある新鮮さを表しています。そしてここに、「神のために人々を贖い」という言葉と、「この人々を王国とし」また「彼らは地上を治めるのです」とありますが、ギリシヤ語の写本のほとんどすべては、この「彼ら」や「人々」は、「私たち」になっています。そこで読み替えてみます。「あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために私たちが贖い、私たちの神のために、私たちが王国とし、祭司とされました。私たちは地上を治めるのです。」ここでこの歌をうたっているのは、天にいる「聖徒たち」です。この歌は明らかに、イエス・キリストの教会の歌であります。小羊の血によって贖われました。ペテロは第一の手紙で、「あなたがたが…贖い出されたのは、…傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によつたのです。(1:18)」と言っています。そして黙示録1章にあるとおり、イエス・キリストが、「私たちが王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方(6節)」です。つまり、今、小羊が七つの封印のある巻き物を受け取っているその時に、天に教会があるということなのです。これから封印が解かれて患難時代が始まるのですが、患難の前に教会がすでに天にまで引き上げられています。

イエスが世界を贖われるのは、そこにご自身が愛された宝である教会があるからです。イエス様が弟子たちに、「天の御国の奥義」をたとえによってお話になりました。有名な、四つの種類の土

に種をまくところでは、いろいろなたとえの一つが、「畑に隠された宝」です。「天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。(マタイ 13:44)」とイエスさまは言われました。畑の中にある宝とは、私たち教会のことです。神がキリストにあって、世界の基が置かれる前から選んでくださった人々のことです。そしてその宝を得るために、全財産すなわち、ご自分のいのちを代価にして、全世界を買い取って下さいました。これからイエスが地上に再臨されて、世界が変わり、神の国になるのです。それほど、私たちはキリストにあって、高価で尊い存在であり、愛されているのです。

そして、ここに、「あらゆる部族、国語、民族、国民の中から」と強調されています。これが、黙示録で繰り返し出て来る言い回しです。なぜならば、これはイエス様の宣教命令だったからです。全ての国民を弟子としなさい、と主は言われました。そして、アブラハムへの約束に、あなたの子孫によって全ての民族が祝福を受けるとありました。バベルの塔の事件以来、人々が言葉に、民族に分れ出しました。漏れることなく、あらゆるところに主は罪人を救うキリストを遣わし、全てのところから主はご自分の民となるものを贖い出されるのです。ですから、主は今、活発に御霊によって世界で働いておられます。七つの目をもってイエス様は働いておられます。

2B 無数の御使いと全被造物 11-14

11 また私は見た。私は、御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。12 彼らは大声で言った。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」

主に愛され、贖われた者たちが天において、その救いをほめたたえている時に、そのことを共に喜んでいるのが、ここにある無数の御使いです。覚えていますか、御使いたちも神の奥義、すなわち私たちが福音によって救われることを知りたがっていたと使徒ペテロが教えています。「1ペテロ 1:12 彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのための奉仕であるとの啓示を受けました。そして今や、それらのことは、天から送られた聖霊によってあなたがたに福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。それは御使いたちもはっきり見たいと願っていることなのです。」そしてイエス様は、一人が悔い改めたら、天において御使いたちに喜びが起こることを語られました(ルカ 15:10)。そして、無数の御使いがいます。ヘブル人への手紙の著者は、私たちが天のエルサレムに近づいていおり、また無数の御使いにも近づいていることを話していました。「ヘブル 12:22 しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。」

彼らの賛美が、ほふられた小羊に向けてのものであります。その小羊に対して、「富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方」と言っています。主は十字架において、弱くされていました。しかし、その弱さにこそ、信じる者すべてを救う神の力が完全に現われています。そして、

主は全てを奪い取られ、貧しくされました。しかし、その貧しさによって、私たちに富む者としてくださいました(2コリント 8:9)。それから、人々は十字架に付けられたキリストが、何と無駄な人生を送ったのかと嘲り、愚かなことだとあしらいました。しかし、十字架にこそ神の知恵のすべてが隠されています。そしてイエス様は卑しめられましたが、その卑しめにこそ、誉れがあり、また神の栄光がありました。そして嘲られているけれども、その十字架こそに賛美の源があります。全てがこのように、矛盾し、逆転しているのです！

13 また私は、天と地と、地の下と、海の上のあらゆる造られたもの、およびその中にある生き物がこう言うのを聞いた。「御座にすわる方と、小羊とに、賛美と誉れと栄光と力が永遠にあるように。」

そして次に、自然界が主をほめたたえるのですが、詩篇の中に御使いが賛美、そして地上にあるものが賛美する姿がでてきます。「103:20-22 主をほめたたえよ。御使いたちよ。みことばの声に聞き従い、みことばを行なう力ある勇士たちよ。主をほめたたえよ。主のすべての軍勢よ。みこころを行ない、主に仕える者たちよ。主をほめたたえよ。すべて造られたものたちよ。主の治められるすべての所で。わがたましいよ。主をほめたたえよ。」神の民が贖われたら、それは畑の中の宝の喩えにあったように、被造物が贖われることを意味しています。だから、彼らは六日目に造られた、神のかたちに造られた人の贖いを、自分たちも喜んでいるのです。「ローマ 8:21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。」

そして、その被造物の範囲ですが、天と地だけでなく、地の下、海の上にまですべて及びます。被造物のあらゆるものであります。地の下が含まれているのは、死んだ者たちも含めて、ということでしょう。また、悪霊や最終的には悪魔も、イエスが主であるとあがめなければいけない日がやって来ます。パウロがピリピ人への手紙に、こう言っているとおりです。「それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、『イエス・キリストは主である。』と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。(2:10-11)」不信者も、神に反抗する墮落した天使も、強制的にイエスが主と認めることとなります。

14 また、四つの生き物はアーメンと言い、長老たちはひれ伏して拝んだ。

賛美は、小羊から父なる神にも帰って来て、そして礼拝も、贖われた教会、御使い、天地へと来てから戻って来て、四つの生き物と長老たちが再びひれ伏して、拝んでいます。「アーメン」と言っています。ここは一回だけ言ったのではなく、正確には「言っていた」と訳すべきところです。つまり、何回もアーメン、アーメン、と言い続けていたこととなります。ここまでが天の情景です。そして6章から、七つの封印が解かれてる、地上の姿が出て来ます。